

原議保存期間	10年（令和15年3月31日まで）
有効期間	一種（令和15年3月31日まで）

警視庁生活安全部長 殿
各道府県警察（方面）本部長
（参考送付先）
警察大学校生活安全教養部長
各管区警察局長広域調整担当部長

警察庁丁保発第85号
令和4年4月21日
警察庁生活安全局保安課長

銃砲刀剣類所持等取締法上の認知機能検査に係る「認知機能検査実施要領」について（通達）

「銃砲刀剣類所持等取締法上の認知機能検査の運用について（通達）」（令和4年4月21日付け警察庁丁保発第84号）2(2)オにおいて別に定めることとされている「認知機能検査実施要領」を別添のとおり定め、令和4年5月13日から実施することとしたので、執務の参考とされたい。

なお、「銃砲刀剣類所持等取締法上の認知機能検査に係る「認知機能検査実施要領」について（通達）」（令和4年3月3日付け警察庁丁保発第44号）は、本通達の実施をもって廃止する。

認 知 機 能 検 査 実 施 要 領

警察庁生活安全局保安課

目 次

第1	実施要領の目的	1
第2	検査実施に当たっての心構え	1
1	検査の趣旨	1
2	検査の性質	1
3	各検査項目における検査の機能	1
4	高齢者の特性や心情に配慮した検査の実施	1
5	検査結果の取扱い	1
第3	検査の実施要領	
1	検査員の要件	2
2	補助者	2
3	検査に必要な用具等	2
4	検査実施時の基本的留意事項	3
5	検査の進行要領	4
第4	検査の採点	4
1	採点用紙	5
2	採点基準	5
3	総合点の算出と結果の判定	5
4	採点と判定の点検	5
第5	検査結果の通知要領	5
1	検査結果を通知する書面の交付	5
2	受検者への説明	6
3	検査結果について、受検者から苦情や不服の申出があった場合の対応	6
4	受診等命令の対象となった者に対する措置	6

第1 実施要領の目的

この実施要領は、銃砲刀剣類所持等取締法（昭和33年法律第6号）第4条の3第1項に規定する認知機能に関する検査（以下単に「検査」という。）の適正かつ円滑な実施を図るため、検査の実施に当たり必要な事項について定めることを目的とする。

第2 検査実施に当たっての心構え

1 検査の趣旨

散弾銃を猟場に置き忘れて帰宅するなど、加齢に伴う認知機能の低下によると思われる事案が発生していることを踏まえ、都道府県公安委員会（以下「公安委員会」という。）は、銃砲若しくはクロスボウ（以下「銃砲等」という。）又は刀剣類の所持の許可又は銃砲等の所持の許可の更新を受けようとする者の年齢が75歳以上の場合には、検査を実施することとされ、その者の認知機能の低下を的確に把握するとともに、本人に認知機能の低下を自覚させ、注意を促すこととされている。

また、当該検査の結果が、銃砲刀剣類所持等取締法施行規則（昭和33年総理府令第16号）に規定する一定の基準に該当するもの（以下「基準該当者」という。）に対し、介護保険法（平成9年法律第123号）第5条の2に規定する認知症であるかどうかについて、公安委員会が指定する医師の診断を受け、当該医師の診断書を提出すべきことを命ずること（以下「受診等命令」という。）ができ、検査を受けなかった者又は診断書の提出命令に応じなかった者に対しては、銃砲等又は刀剣類の所持許可をしてはならないこととされている。

したがって、検査を実施する者（以下「検査員」という。）は、基本的事項を理解し、検査を適正かつ円滑に実施しなければならない。

2 検査の性質

検査は、受検者の認知機能の状況を確認する簡易な手法の一つであり、受検者の認知症の診断を行うものではない。認知症の診断は、飽くまでも専門の医師により行われるものであり、検査員は受検者に対し、検査の性質について確実に説明を行い、受検者の誤解を招かないよう留意しなければならない。

3 各検査項目における検査の機能

(1) 手がかり再生

16の記憶項目を再生することによる記憶力についての検査である。

(2) 時間の見当識

現在の自己及び自己が置かれている状況についての認識を見当識といい、時間の見当識は、受検者が自ら置かれている時を正しく認識しているかについての検査である。

4 高齢者の特性や心情に配慮した検査の実施

検査は75歳以上の高齢者を対象に実施されるものであることから、高齢者の特性や心情に配慮して、実施しなければならない。

5 検査結果の取扱い

検査の結果は、簡易なものであるとはいえ、受検者の認知機能の状況を示すもの

であり、受検者の個人の秘密に関する情報であることから、その取扱いには十分に注意しなければならない。

第3 検査の実施要領

1 検査員の要件

検査員は、検査の実施、採点及び結果の説明はもとより、高齢者の心理、認知機能の低下の様々な態様、その他高齢者への対応に当たり留意すべき事項について知見を有することが必要である。

このため、検査員は、21歳以上の者で、公安委員会が行う検査の実施に必要な技能及び知識に関する講習を修了した者でなければならない。

2 補助者

検査員の事務を補助するため、補助者を置くことができる。補助者は、検査員の指導監督の下、各種事務の補助を行う。

なお、補助者が事務の補助を行う場合には次の点に留意しなければならない。

- (1) 検査の実施要領等を厳守すること。
- (2) 各種事務の補助は検査員の指示により行うこと。
- (3) 受検者からの質問に対しての回答は行わないこと（検査員の要件を満たしている者を除く。）。
- (4) 補助に当たっては、検査結果に影響を及ぼさないようにすること。

3 検査に必要な用具等

検査は、検査用紙による検査（以下「ペーパー検査」という。）又は検査に必要なソフトウェアが搭載されたタブレットによる検査（以下「タブレット検査」という。）のいずれかにより行うことができる。

(1) ペーパー検査

ア 検査用紙

検査用紙は、氏名等を記載する表紙、問題用紙及び回答用紙とし、別添1に示すものを使用する。

検査用紙の大きさはA4版以上とし、次の問題用紙や回答用紙の内容が容易に見えないように片面印刷を原則とする。

なお、問題用紙は、スクリーンに投影する等の方法によることとしても差し支えない。

イ イラスト及び関係資機材

手がかり再生で使用するイラストは、別添2のイラストを用い、全ての受検者に見えるよう、大きなボードを用いたり、スクリーンに投影したりして示すこととし、このための関係資機材を準備する。

なお、検査の結果に影響を及ぼさないよう、イラストには着色等を行わないこと。

ウ ストップウォッチ

各検査項目で時間を計測するために使用する。

エ 筆記用具

検査用紙に回答を記入するために使用する鉛筆等を準備する。

なお、回答の際に記載を誤った場合は、二本線を引き、書き直させることとするため、消しゴムは準備しない。

(2) タブレット検査

ア タブレット本体

あらかじめ受検者情報等がタブレットに反映されているかどうかについて確認すること。

イ 筆記に必要な電子ペン

ウ ヘッドフォン

4 検査実施時の基本的留意事項

(1) ペーパー検査及びタブレット検査共通の留意事項

ア 検査を実施する場所は、外部から遮断された場所とする。

イ 複数の受検者に対して同時に検査を行う場合には、受検者のプライバシーの保護及び検査の適正を図るため、間隔を設けて配席をしたり、衝立を受検者の間に置くなどの配慮をする。

ウ 検査を実施する場所にあるカレンダーや壁時計等は、あらかじめ外すか覆いを掛けるなどする。

エ 受検者の腕時計や携帯電話、メモ類等の所持品は、あらかじめカバン等に入れてもらう。

オ 他の受検者と一緒に検査を行う場合は、検査中に受検者が声を出さないように注意する。

カ 検査の実施前に、受検者からトイレ等の申出があるかどうかを確認し、できる限り、検査の実施中に受検者がトイレ等に行くことがないようにする。

キ 次に掲げる者については、個別又は事後に検査を行う。

(ア) 検査員の説明を聞き取れないと認められる者

(イ) 検査員の説明を理解できないと認められる者

(ウ) 注意力が散漫で検査に耐えられないと認められる者

(エ) 不正行為を行っているとして認められる者

(オ) その他、個別又は事後に検査を行わなければ、検査の進行に支障があると認められる者

ク 検査時において手が震えるなどして文字が書けない状態にあると認められる者については、受検者の回答を聴取して、検査員又は補助者が代筆するなどの措置を執ることができる。

ケ 検査中、不正行為を行っている者がいないか確認を行う。

(2) ペーパー検査における留意事項

ア 1回当たりの受検者数は、適正な検査が実施できるよう10人以下とする。

なお、補助者を置く場合は20人以下とすることができるが、その場合には、次の点に配慮しなければならない。

(ア) 手がかり再生のイラストは、全員が確認できるよう補助者も掲示するなどの措置を執る。

(イ) 検査を実施する場所は、補助者が余裕を持って移動できるような広さを確保する。

イ 検査前及び検査中は、受検者が緊張することのないよう言動に留意する。

また、説明等は、ゆっくりと大きな声で丁寧な言葉遣いにより、受検者が理解しやすいように配慮する。

ウ 検査は、5「検査の進行要領」により行うこととし、キの場合を除き、検査の順番を入れ替えてはならない。

また、記載されている説明を省略したり、記載されていない説明を行ったりするなど進行要領を取捨選択等して説明することなく、進行要領に従った説明等を厳守すること。

エ 各検査項目の進行に応じ、指示したページを受検者が開いているか、指示した項目について受検者が記入しているかをその都度確認しながら、検査を進める。

オ 各検査項目を行う前に、受検者に質問がないかを確認し、回答方法等について不明な受検者がいるまま検査を進めない。

カ 検査は、受検者を焦らせることがないように円滑に進めること。なお、各検査項目の回答時間は、正確に時間を測定すること。

キ 検査中に受検者からトイレ等の申出があった場合には、受検者が申出を行った者一人であるときには検査を中断し、トイレ等を済ませた後に中断した検査項目の冒頭から再度行う。受検者が複数のときは、申出を行った者以外の者については検査を継続し、申出を行った者は戻った時点で行っている検査項目の次の検査項目から行い、全ての検査が終了した後に、当該者が受けることができなかった検査項目を行う。

(3) タブレット検査における留意事項

ア 1回当たりの受検者数の制限は設けない。ただし、検査会場の規模に応じて受検者の案内や質疑対応等が可能な範囲で実施し、必要に応じて補助者を配置すること。実施方法については、一斉又は個別を問わない。

イ 検査員は、各受検者の進行状況等について、随時確認を行うこと。

ウ 検査中に受検者からトイレ等の申出があった場合には、検査を中断し、戻った時点で中断したところから再度始めること。なお、離席中は検査時間が進行しないようタブレットを操作すること。

5 検査の進行要領

ペーパー検査の具体的な進行要領は、別添3の「認知機能検査進行要領」によるものとする。また、タブレット検査については、タブレットからの音声ガイダンスにより、同要領に準拠して実施するものとする。

この際、手がかり再生については、別添2の4つのパターン（パターンA、パターンB、パターンC又はパターンD）のうち、任意に選んだ1パターンを使用（タブレット検査の場合は任意に選択して設定）する。

第4 検査の採点

1 採点用紙

ペーパー検査の採点に当たっては、手がかり再生において使用する各イラスト（パターンA、パターンB、パターンC又はパターンD）に対応する採点補助用紙（別添4）を用いる。

タブレット検査の採点は、ソフトウェアにより自動で行うことを可能とする。

2 採点基準

採点基準は、別添5のとおりとする。

3 総合点の算出と結果の判定

(1) 総合点の算出

総合点は、時間の見当識及び手がかり再生の2つの検査の点を、次の計算式に代入して算出する。

算入した総合点は、小数点以下を切り捨て、整数で表記するものとする。

(計算式)

$$\text{総合点} = 2.499 \times A + 1.336 \times B$$

A 手がかり再生の点

B 時間の見当識の点

(2) 総合点と結果の判定

総合点によって、認知症のおそれがある者又は認知症のおそれがない者に判定する。

ア 認知症のおそれがある者

総合点が36点未満

イ 認知症のおそれがない者

総合点が36点以上

(3) 採点の合理化

手がかり再生の点が32点満点中15点以上となる受検者は、総合点で36点以上となることが計算上明らかである。このような場合は、総合点の算出をすることなく、「総合点が36点以上」と採点することとしても差し支えない。

4 採点と判定の点検

採点と判定については、必ず複数人による点検を行い、採点及びその点検をした者は採点補助用紙（別添4）の欄に氏名を記入する。

なお、タブレット検査において、自動採点機能により総合点が36点に達した者については、検査員による採点結果の点検は要しないこととするが、総合点が36点に達しない者については、文字認識結果に誤りがないことを複数人により確認した上で判定を行うこと。

第5 検査結果の通知要領

1 検査結果を通知する書面の交付

検査を受検した者に対しては、検査結果を通知する書面を交付すること。

検査結果を通知する書面は、別添6に示す様式によることとし、検査の結果に対応する通知文書により行う。

なお、検査結果は、受検者の重要な個人情報であることに十分留意し、通知に当たっては、検査結果を他の受検者に知られることのないよう、封書に入れるなどして伝達する。

2 受検者への説明

検査結果を通知した後、「認知機能検査進行要領」（別添3）に従い、受検者に説明を行う。

3 検査結果について、受検者から苦情や不服の申出があった場合の対応

検査結果について、受検者から苦情や不服の申出があった場合、検査終了後に個別に説明を行う。この場合、必要に応じて、検査用紙及び採点補助用紙を示し、採点方法や採点結果について説明を行う。

なお、これらの苦情や不服の申出と対応状況については、必要に応じ記録を行う。

4 受診等命令の対象となった者に対する措置

- (1) 検査終了後、受診等命令の対象となった者（以下「受診等命令対象者」という。）に対し速やかに受診等命令書を交付すること（受診等命令書の交付は検査当日が望ましいが、手続上それが困難な場合には翌日以降に交付しても差し支えない。）
なお、受診等命令書の交付に当たっては、プライバシーの保護に十分配慮すること。
- (2) 複数の受検者に対して同時に検査を行う場合、受診等命令対象者のみを居残らせたり、受診等命令が発せられたことを他の受検者が推測できるような言動を行ったりしないよう留意すること。

にんちぎのうけんさけんさようし
認知機能検査検査用紙

なまえ 名前	
せいねんがつび 生年月日	たいしやう 大正 ねん がつ にち 年 月 日 しやうわ 昭和

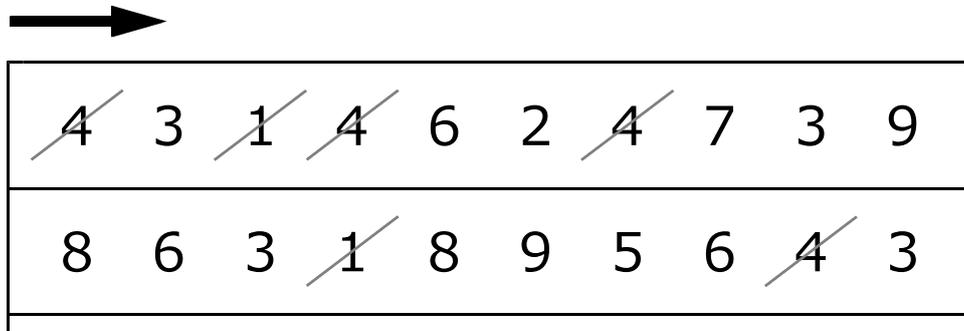
しよちゆうい
諸注意

- 1 指示があるまで、用紙はめくらないでください。
- 2 答を書いているときは、声を出さないでください。
- 3 質問があったら、手を挙げてください。

問題用紙 1

これから、たくさん数字が書かれた表が出ますので、私が指示をした数字に斜線を引いてもらいます。

例えば、「1と4」に斜線を引いてくださいと言ったときは、



4	3	1	4	6	2	4	7	3	9
8	6	3	1	8	9	5	6	4	3

と例示のように順番に、見つけただけ斜線を引いてください。

※ 指示があるまでめくらないでください。

かい とう よう し
回 答 用 紙 1



9	3	2	7	5	4	2	4	1	3
3	4	5	2	1	2	7	2	4	6
6	5	2	7	9	6	1	3	4	2
4	6	1	4	3	8	2	6	9	3
2	5	4	5	1	3	7	9	6	8
2	6	5	9	6	8	4	7	1	3
4	1	8	2	4	6	7	1	3	9
9	4	1	6	2	3	2	7	9	5
1	3	7	8	5	6	2	9	8	4
2	5	6	9	1	3	7	4	5	8

※ 指示があるまでめくらないでください。

問 題 用 紙 2

少し前に、何枚かの絵をお見せしました。

何が描かれていたのかを思い出して、できるだけ全部書いてください。

※ 指示があるまでめくらないでください。

かい とう よう し
回 答 用 紙 2

1 .
2 .
3 .
4 .
5 .
6 .
7 .
8 .

9 .
10 .
11 .
12 .
13 .
14 .
15 .
16 .

※ 指示があるまでめくらないでください。

問 題 用 紙 3

今度は、回答用紙にヒントが書いてあります。

それを手がかりに、もう一度、何が描かれていたのかを思い出して、できるだけ全部書いてください。

※ 指示があるまでめくらないでください。

かい とう よう し
回 答 用 紙 3

1. 戦 <small>たたか</small> いの武器 <small>ぶき</small>	9. 文房具 <small>ぶんぼうぐ</small>
2. 楽 <small>がっ</small> 器 <small>き</small>	10. 乗 <small>の</small> り物 <small>もの</small>
3. 体 <small>からだ</small> の一部 <small>いちぶ</small>	11. 果物 <small>くだもの</small>
4. 電 <small>でん</small> 気 <small>き</small> 製 <small>せい</small> 品 <small>ひん</small>	12. 衣 <small>い</small> 類 <small>るい</small>
5. 昆 <small>こん</small> 虫 <small>ちゅう</small>	13. 鳥 <small>とり</small>
6. 動 <small>どう</small> 物 <small>ぶつ</small>	14. 花 <small>はな</small>
7. 野 <small>や</small> 菜 <small>さい</small>	15. 大工 <small>だいこう</small> 道具 <small>どうぐ</small>
8. 台所 <small>だいどころ</small> 用品 <small>ようひん</small>	16. 家 <small>か</small> 具 <small>ぐ</small>

※ 指示しじがあるまでめくらないでください。

問 題 用 紙 4

この検査には、5つの質問があります。

左側に質問が書いてありますので、それぞれの質問に対する答を右側の回答欄に記入してください。

答が分からない場合には、自信がなくても良いので思ったとおりに記入してください。空欄とならないようにしてください。

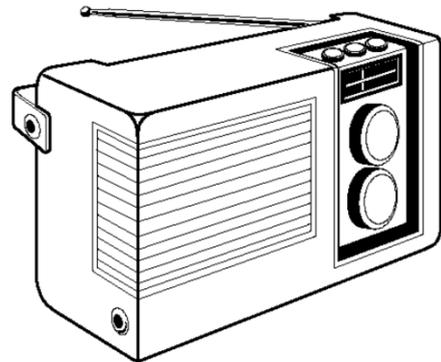
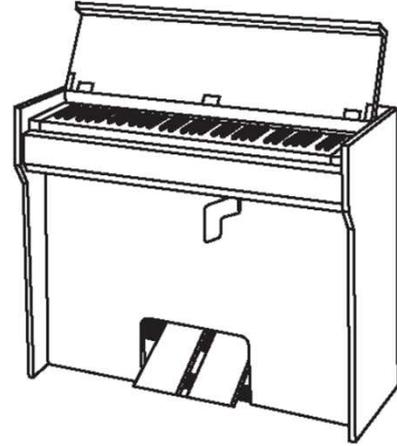
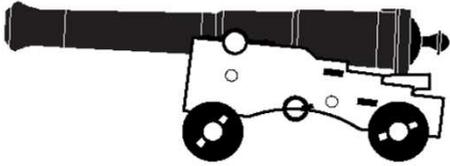
※ 指示があるまでめくらないでください。

かい とう よう し
回 答 用 紙 4

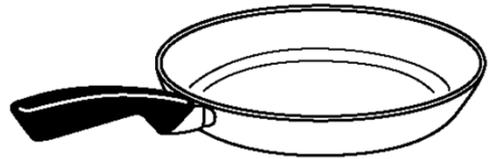
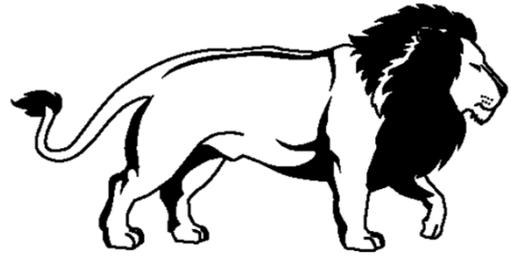
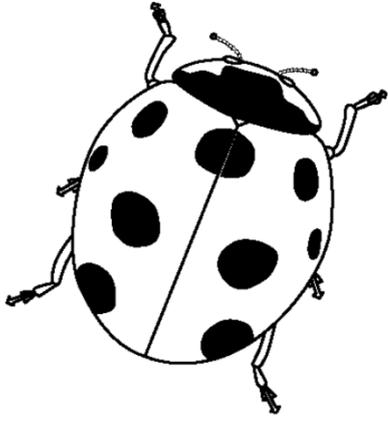
い か しつもん こた
以下の質問にお答えください。

しつもん 質 問	かい とう 回 答
ことし なんねん 今年は何年ですか？	ねん 年
こんげつ なんがつ 今月は何月ですか？	がつ 月
きょう なんにち 今日は何日ですか？	にち 日
きょう なんようび 今日は何曜日ですか？	ようび 曜日
いま なんじ なんぶん 今は何時何分ですか？	じ ぶん 時 分

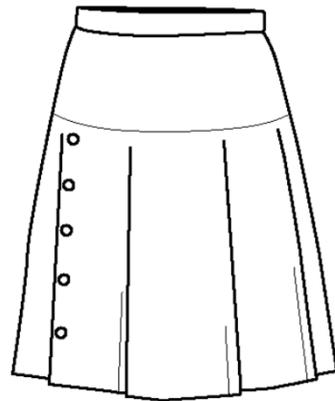
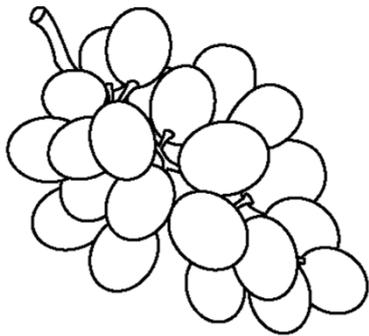
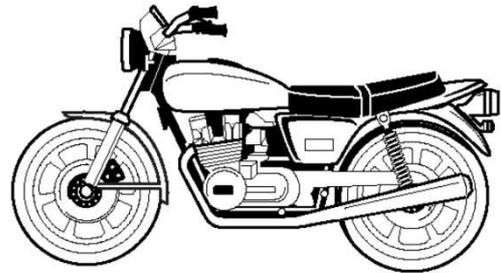
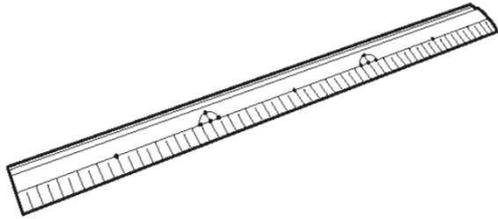
パターンA



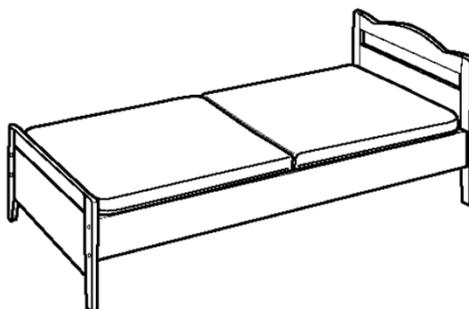
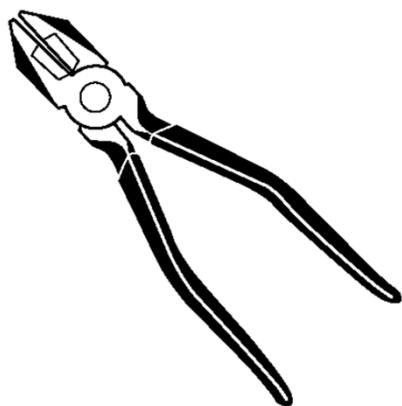
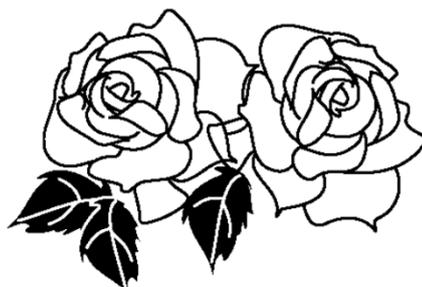
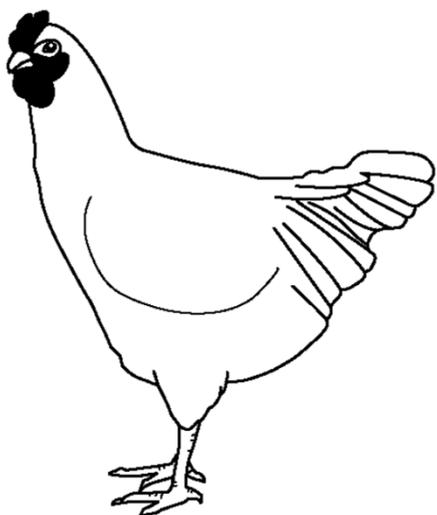
パターンA



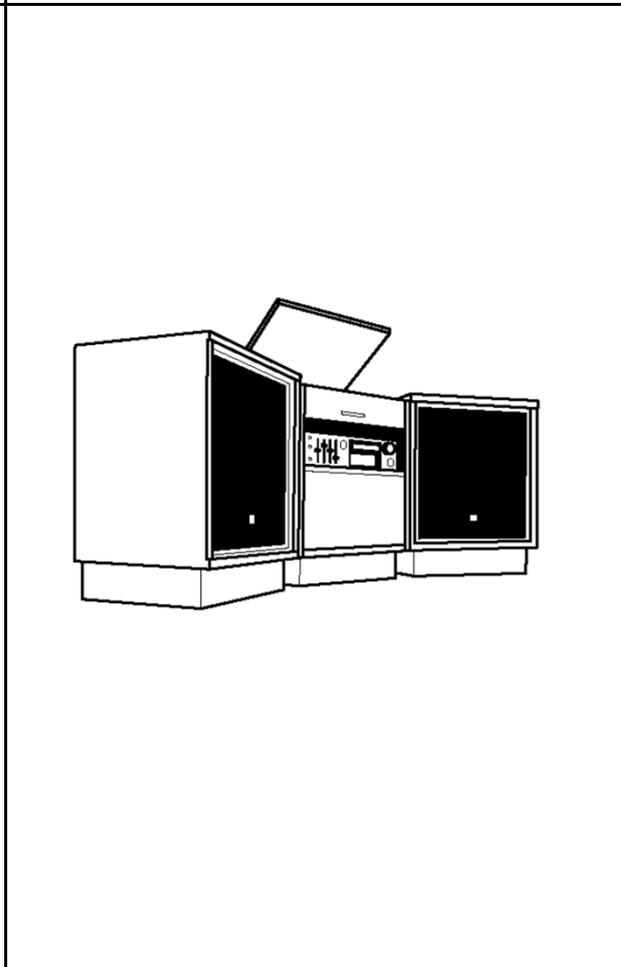
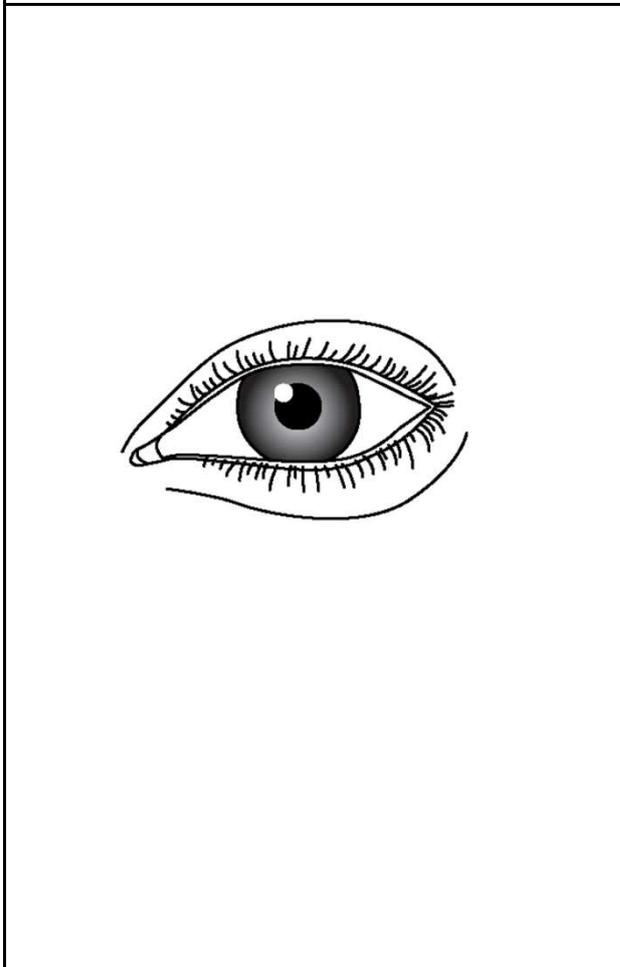
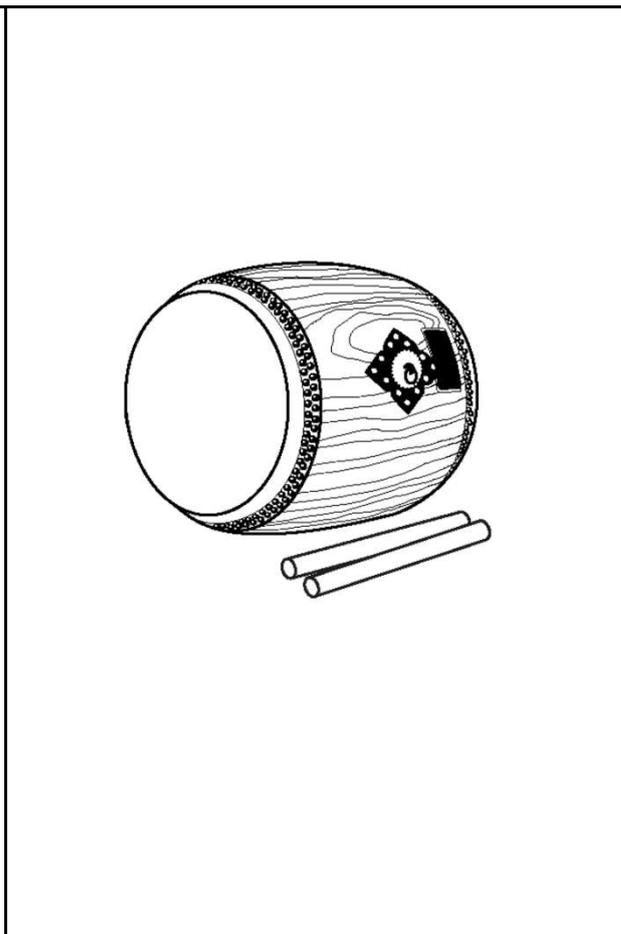
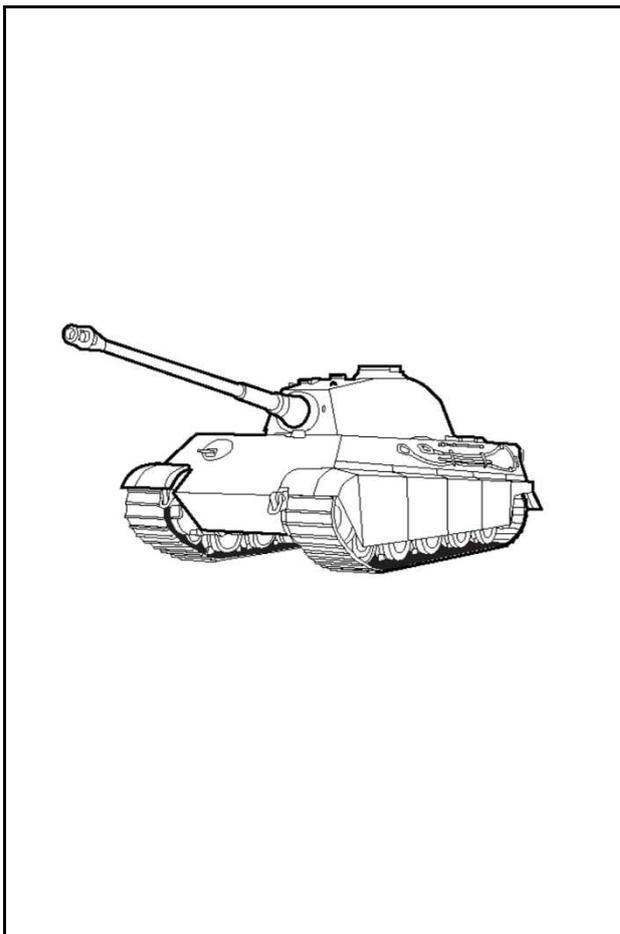
パターンA



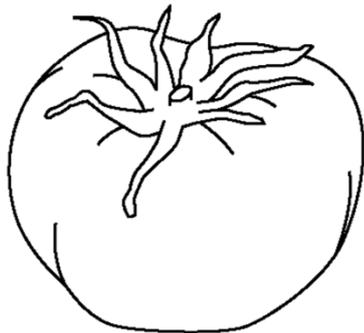
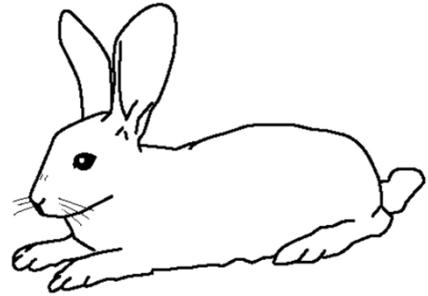
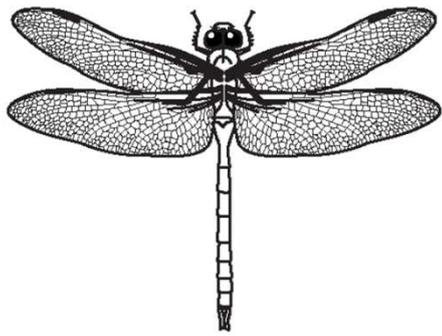
パターンA



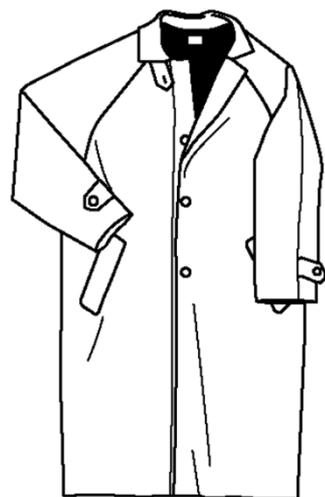
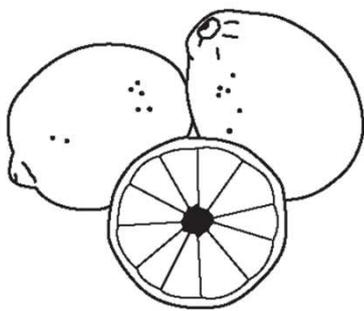
パターンB



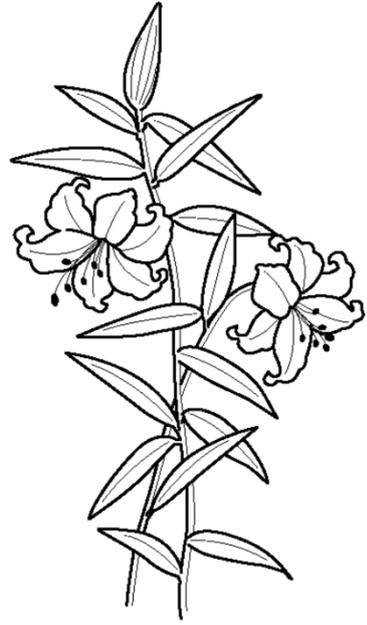
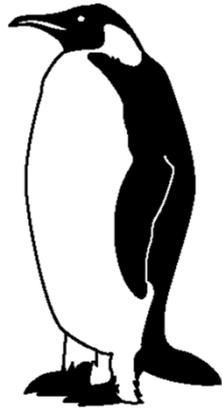
パターンB



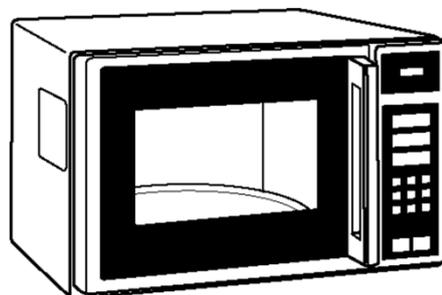
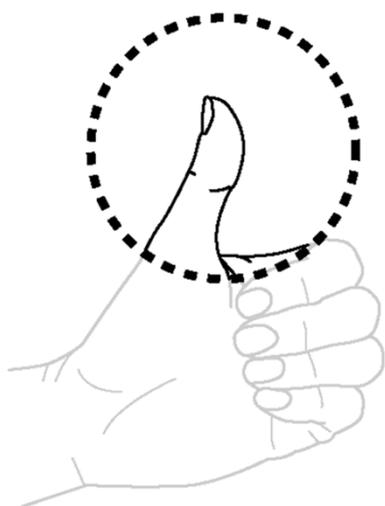
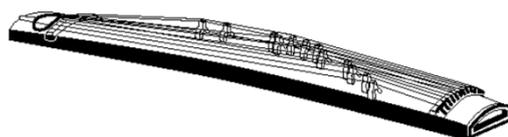
パターンB



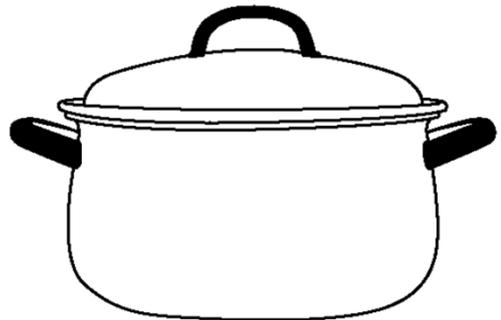
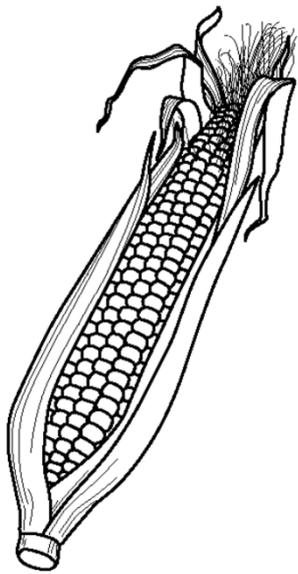
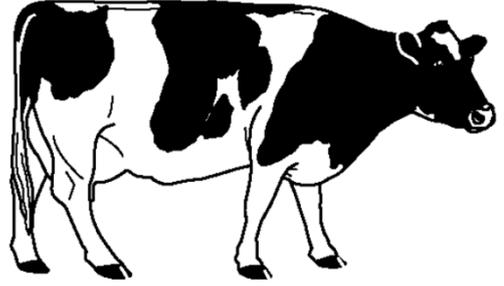
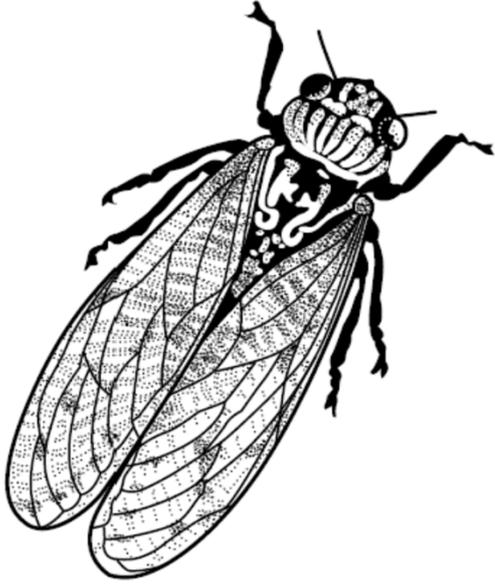
パターンB



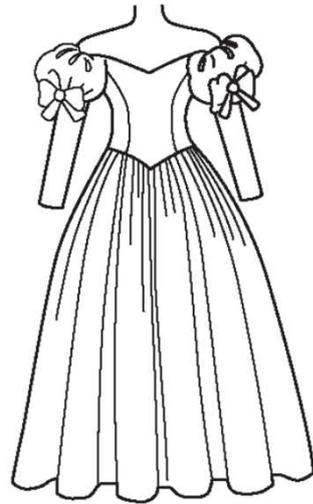
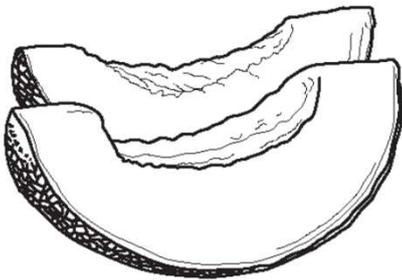
パターンC



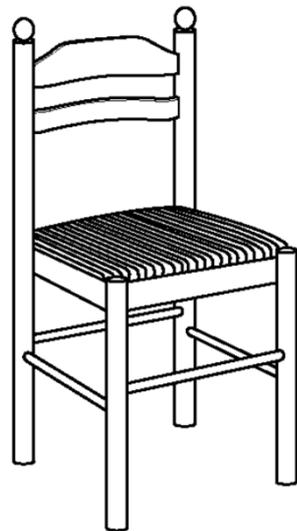
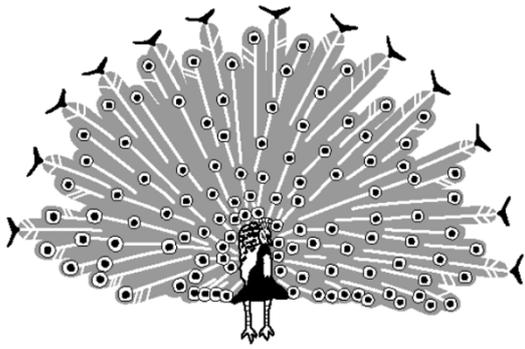
パターンC



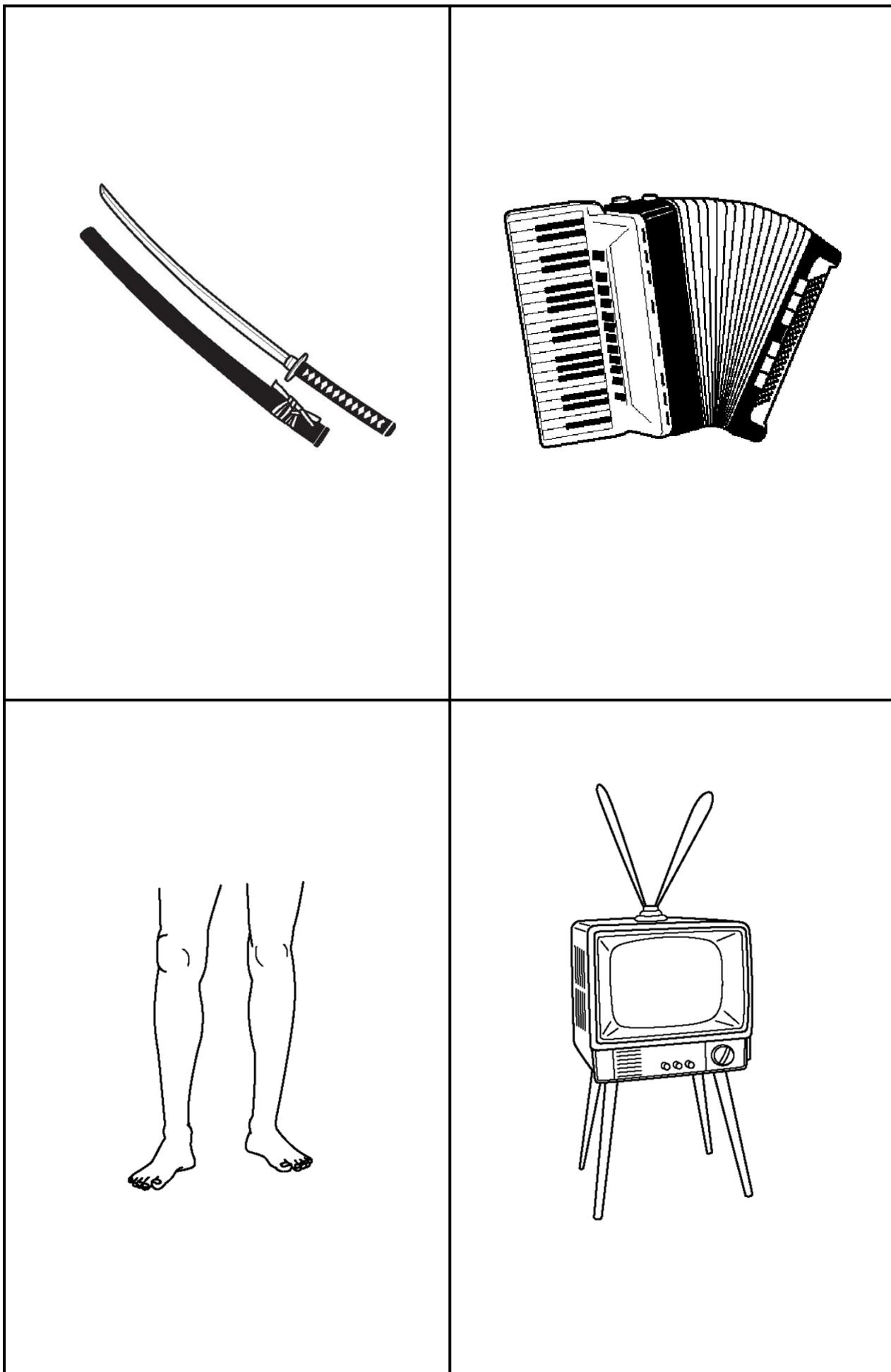
パターンC



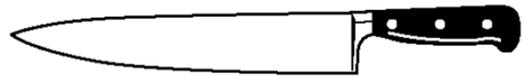
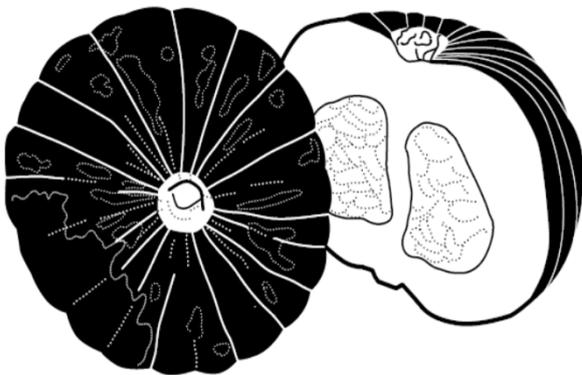
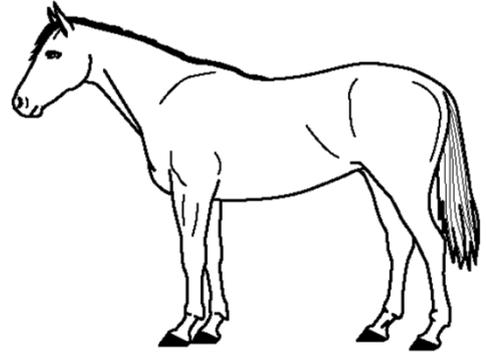
パターンC



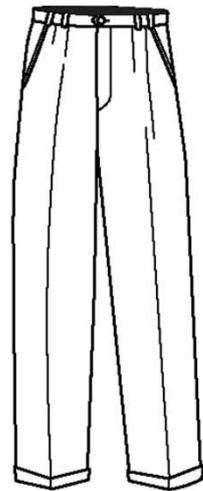
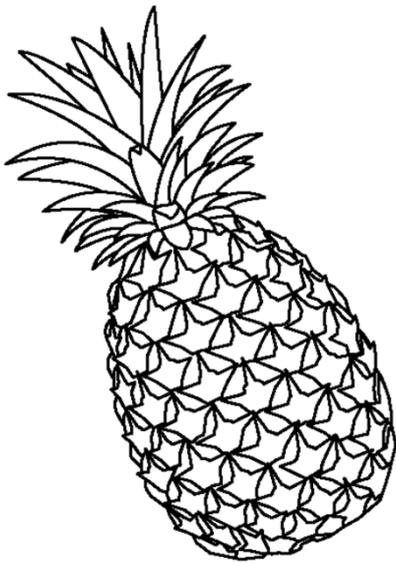
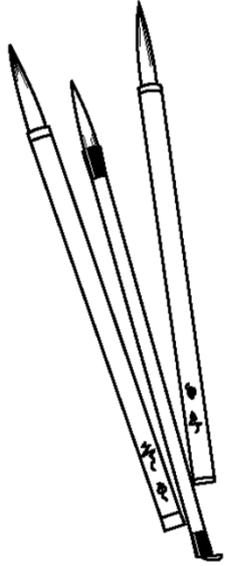
パターンD



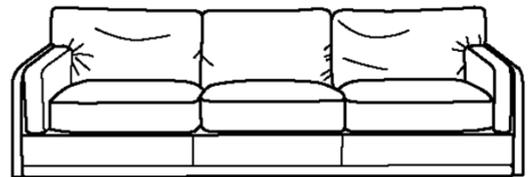
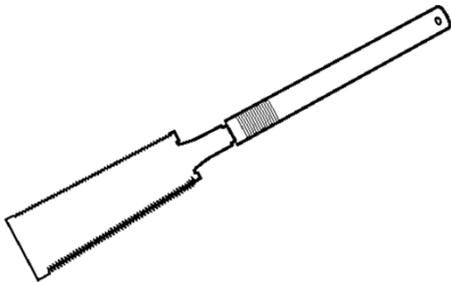
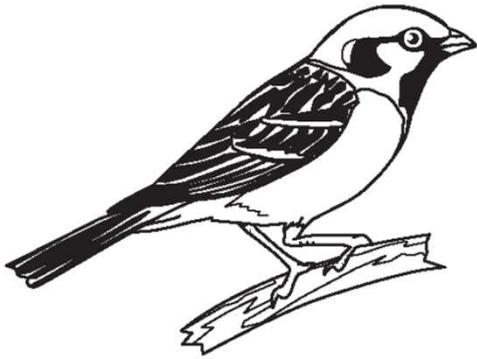
パターンD



パターンD



パターンD



認知機能検査進行要領

目次

1	検査に当たっての事前の指示	1
2	検査結果等に関する説明	2
3	表紙の記載	3
4	手がかり再生の実施	4
(1)	イラストの記憶	4
(2)	介入課題	5
(3)	自由回答	7
(4)	手がかり回答	8
5	時間の見当識の実施	9
6	検査用紙の回収から検査結果の通知	11

認知機能検査進行要領

1 検査に当たっての事前の指示

これから、検査を始めます。

私の声が聞こえますでしょうか。

聞こえた方は、手を挙げて教えてください。【注①】

検査に当たって、

まず、携帯電話をお持ちの方は、検査中に鳴らないよう
マナーモードにするか、電源を切って、

カバンの中やポケットなどにしまってください。【注②】

時計をしている方も、

カバンの中やポケットなどにしまってください。

字の読み書きに眼鏡が必要な方は、出しておいてください。

それでは検査中の諸注意を行います。

問題用紙などは、指示があるまでめくらないでください。

【注③】

回答中は、声を出さないようにしてください。

質問があったら、手を挙げてください。

回答中に書き損じがあったときは、

二重線でこのように【注③】訂正してください。

よろしいですか。御質問はありませんか。

【タブレットによる検査】

タブレットによる検査を実施する場合の音声ガイダンスは、この進行要領に準拠すること。なお、画面遷移に合わせた説明内容に変更することは差し支えない。

① 聞こえていない者がいる場合には、補聴器等を着用させて再度確認し、着用しても十分に聞こえないようであれば、退室させること。

その他にも、受検困難者がいる場合は退室させること。

② 携帯電話や時計が机の上等に置かれていないことを確認すること。

【備考】

○ しまわせる説明の際に「時間についての質問があります。」など、しまう前に受検者が時間を覚えてしまうような説明は行わないこと。

○ [] 内の説明については、事前に行っている場合は省略可。

③ 「諸注意」(例)を作成、掲示するなどして説明に活用すること。

(例)

諸注意

○ 指示があるまで用紙をめくらない。

○ 回答中は声を出さない。

○ 質問は手を挙げて。

○ 訂正は二重線で。

(例) 太
日本 太郎

2 検査結果等に関する説明

それでは、本日の検査について御説明します。

この検査は安全な銃砲やクロスボウ、刀剣類の取扱いに必要な記憶力、判断力を確認するために行うものです。

検査の結果、「認知症のおそれがある」とされた方は、公安委員会が指定するお医者さんの診断を別に受けていただく場合があります。

検査は、30分ほどで終わります。

検査の結果は、検査が終わったら皆さんにお伝えします。

検査用紙はお手元にありますか。【注①】

【備考】

- 認知機能検査の実施に当たっては、受検者それぞれの心情に配慮しながら、その目的や必要性について丁寧な説明がなされるよう特段の配慮をすること。
- 認知機能が低下した者には回答が困難な検査であることから、「誰でも簡単にできる。」等、受検者の心情を害する可能性のある説明は行わないこと。
- 検査目的・検査結果の取扱い等について、プロジェクタを使用するなど、可能であれば視覚的な教示も併せて行うこと。

- ① 検査用紙をあらかじめ配布していない場合は、ここで配布すること。

3 表紙の記載

それでは、検査用紙への記入をしていただきます。

検査用紙 表紙

最初は、「名前」です。

ご自分のお名前を記入してください。

ふりがなはいりません。

間違えたときは、二重線で訂正して書き直してください。

消しゴムは使えません。【注①】

これからの検査で間違えた場合も、

同じように書き直してください。

① 間違えた際の二重線での訂正方法の説明は、諸注意を利用し、再度、受検者に理解しやすいように行うこと。

次は「生年月日」です。

ご自分の生年月日を記入してください。【注②】

② 自分の生年月日が分からない場合には、検査員が免許証で確認の上、受検者に記入させること。

書けた方は、鉛筆を置いてください。【注③】

③ この段階で全員が記入したかどうかを確認すること。

これから検査を始めます。

各検査のはじめに、私から、検査について御説明します。

説明の後、皆さんに分からない点があるかどうか伺います。

なければ、検査を始めますが、

私が指示するまで、用紙をめくらないようにお願いします。

答を書いているときは、声を出さないでください。

回答中、御質問があれば、静かに手を挙げてください。

御質問はありませんか。【注④】

④ 受検者の様子を確認し、質問したいことがありそうな受検者に対しては、質問がないかどうか声をかけること。

4 手がかり再生の実施

(1) イラストの記憶

最初の検査を行います。

用紙は、指示があるまでめくらないでください。

これから、いくつかの絵を御覧いただきます。

一度に4つの絵です。

それが何度か続きます。

後で、何の絵があったかを、全て、答えていただきますので、よく覚えるようにしてください。

絵を覚えるためのヒントもお出しします。

ヒントを手がかりに、覚えるようにしてください。【注①】

絵が見にくい場合は、手を挙げて、お知らせください。

御質問はありませんか。

(イラストを掲示し、別添2に従い実施する。)

(イラストを隠す。)

いかがでしたか。

後で、何の絵があったのかをお答えいただきますので、よく覚えておいてください。

【検査の目的】

手がかりをもとに記憶を再生する検査で、16枚の絵を記憶させ、一定の時間経過（介入課題）の後、どれだけ再生できる（記憶している）かの検査である。

【備考】

○ イラストが小さい、後方に座っている受検者が確認しにくいなどの対策のため補助者も検査員の進行に合わせて受検者の近くで同じイラストを掲示するなど、受検者がイラストを確認しやすくなるように工夫すること。

○ ラミネート加工しているものは光の反射で絵が見にくくなる場合もあるので掲示方法に注意すること。

① この検査は、記憶させるときの手がかりと記憶を再生するときの手がかりが同じであることを前提とした検査であることから、最初に与える手がかりは必ず本要領に記載のとおりものとする。

【備考】

○ 別添2のパターンA、パターンB、パターンC、パターンDのうち任意の1パターンのイラストを、受検者全員が見やすいように示し、パターンに応じ、別紙に示す順序で行う。

○ 時間は1枚につきおおむね1分で行う。

(2) 介入課題

それでは、別の課題を行います。

用紙をめくってください。

「問題用紙 1」です。

これから、たくさん数字が書かれた表が出ます。

私が指示をした数字に、斜線を引いていただきます。

例えば、

「1と4」に斜線を引いてください

と言ったときは、表の中から「1と4」の数字を見つけて、

一番上の行の左から順番に、

見つけただけ斜線を引いてください。

御質問はありませんか。

それでは、問題用紙をめくってください。

数字がたくさんある「回答用紙 1」です。

行は、なるべくとばさないように、お気をつけください。

【検査の目的】

手がかり再生の出題から回答までに一定時間を空けることが目的の課題である。

検査用紙

問題用紙 1

【備考】

回答時間が長くなると手がかり再生の回答に影響を及ぼすことから、時間は正確に計測し、介入課題の時間を厳守すること。

検査用紙

回答用紙 1

それでは、「○と○」に斜線を引いていただきます。【注①】

鉛筆を持って、始めてください。

(ストップウォッチで30秒間計測)【注②】

やめてください。

鉛筆を置いてください。

次は、「○と○と○」に斜線を引いていただきます。【注③】

鉛筆を持って、同じ用紙の、左上の矢印のところから、
始めてください。

(ストップウォッチで30秒間計測)

やめてください。

鉛筆を置いてください。

① 1回目は、2つの数字を指定する。受検者が理解しやすいようにホワイトボードを利用して削除する数字「1、4」等と書いても構わない。

削除する数字は、その都度変更して行う。

② 時間を厳守し、回答用紙1の記載が30秒以内にできない場合であっても、次に進むこと。

③ 2回目は、①で使用した用紙に①で指定した数字以外の3つの数字を指定して行う。

(3) 自由回答

それでは、用紙をめくってください。

「問題用紙 2」です。

少し前に、何枚かの絵を御覧いただきました。

何が描かれていたのかをよく思い出して、

できるだけ、全部書いてください。

回答の順番は問いません。

思い出した順で結構です。

「漢字」でも「カタカナ」でも「ひらがな」でも構いません。

間違えた場合は、二重線で訂正してください。

御質問はありませんか。

それでは、用紙をめくってください。

「回答用紙 2」です。

鉛筆を持って、始めてください。

(ストップウォッチで3分間計測)

やめてください。

鉛筆を置いてください。

【検査の目的】

1回目は、手がかりなしで再生を実施し、記憶力を検査する。

検査用紙

問題用紙 2

検査用紙

回答用紙 2

【備考】

受検者から、手がかり再生の自由回答の記載中に質問があっても、「動物」「体の一部」などのヒントを言わず、「先ほどお見せした絵について回答を書いてください。」と説明すること。

(4) 手がかり回答

それでは、用紙をめくってください。

「問題用紙3」です。

今度は、回答用紙にヒントが書かれています。

それを手がかりに、もう一度、何が描かれていたのかをよく思い出して、できるだけ全部書いてください。

それぞれのヒントに対して、回答は一つだけです。

二つ以上は書かないでください。

「漢字」でも「カタカナ」でも「ひらがな」でも構いません。
間違えた場合は、二重線で訂正してください。

御質問はありませんか。

それでは、用紙をめくってください。

「回答用紙3」です。

鉛筆を持って、始めてください。

(ストップウォッチで3分間計測)

やめてください。

鉛筆を置いてください。

【検査の目的】

2回目は、手がかりをもとに再生を実施し、記憶力を検査する。

検査用紙

問題用紙3

検査用紙

回答用紙3

5 時間の見当識の実施

最後の検査を始めます。

用紙をめくってください。

「問題用紙 4」です。【注①】

この検査には、5つの質問があります。

左側に質問が書かれています。

それぞれの質問に対する答を

右側の回答欄に記入してください。

よく分からない場合でも、

できるだけ何らかの答を記入してください。

空欄とならないようにしてください。【注②】

質問の中に「何年」の質問があります。

これは「なにどし」ではありません。

干支で回答しないようにしてください。

「何年」の回答は、

西暦で書いても、和暦で書いても構いません。

和暦とは、元号を用いた言い方のことです。【注③】

御質問はありませんか。

用紙をめくってください。

「回答用紙 4」です。

【検査の目的】

現在の自己及び自己がおかれている状況についての認識を見当識といい、時間の見当識は、受検者が自らがおかれている時を正しく認識しているかについての検査である。

検査用紙 問題用紙 4

- ① 各受検者の用紙を確認

【備考】

時間の見当識の検査を説明する際、回答用紙 4 を受検者に提示して説明しないこと。

- ② 空欄の場合には誤答として評価され、総合点に影響することから、分からない場合にも、できるだけ記入させること。この場合、空欄がある受検者に対しては、個別に指示することはせず、受検者全員に対する説明として回答の記載を促すこと。

- ③ 「年」の回答については、西暦でも和暦でも構わないが、さらに「令和何年ということですか。」や「2021年ということですか。」という質問があった場合も、「そのとおりです。」とか、「二千何年ですね。」「令和何年ですね。」と受検者にヒントを与えるような回答はせず、「西暦でも和暦でも構いません。」と回答すること。

和暦の意味について受検者から質問があった場合も、「令和〇〇年です。」という言い方ではなく、「明治、大正、昭和などの元号を用いた言い方です。」などと回答すること。

検査用紙 回答用紙 4

鉛筆を持って、始めてください。

(ストップウォッチで2分間計測)

(検査員は検査日時を控える。)

【注④】

※ 「空欄があるので書いてください。」

※ 「書き直し等はありませんか。」

(確認し、無ければ時間前であっても終了可)

やめてください。

鉛筆を置いてください。

【備考】

時間について「正確な時間が分からない。」などの質問があった場合は、「想像で書いてください。」「だいたいで構いません。」などと回答すること。

④ 回答漏れがないかどうかの注意喚起を受検者の様子を見て「空欄があるので書いてください。」などを行う。

また、時間の見当識については、全員が計測時間内に回答の記載を終えている場合は、終了しても問題ないか確認し、書き直し等がない場合は計測時間終了前であっても終了してよい。

6 検査用紙の回収から検査結果の通知

回 収

これで検査は終了です。

検査用紙の回収を行います。

採 点

これから検査の採点を行い、採点結果を個別にお伝えします。

通 知

検査結果が書かれている書面を個別にお渡しします。

書面には、お名前、採点結果、

採点結果に応じた助言が書かれています。

総合点によって、

認知症のおそれがない

認知症のおそれがある

と判定がされています。

この検査は、記憶力や判断力の状況を簡易な検査によって確認するものです。

検査の結果、「認知症のおそれがある」とされた方であっても直ちに認知症であるというわけではありませんが、医師や家族にご相談されることをお勧めします。

ただし、「認知症のおそれがある」と判定された方は、公安委員会の指定する認知症の専門医の診断を受けていただく場合があります。

【備考】

- 検査用紙をすべて回収し、枚数を確認する。
- 各受検者の用紙が混在しないように回収に注意する。

- 採点中にトイレなどに行かせることは可。

- 個人を間違わないように確認しながら通知すること。

- 検査結果を通知する書面を封書に入れるなどして、受検者1人ずつに交付し、受検者全員に書面が交付されているか確認すること。

書面の裏面には、
採点方法や総合点による判定について記載しています。
後でご覧ください。

検査結果について、不明な点がある方は、ご相談ください。

検査はこれで終了です。

パターンA

(1 枚目)

これは、大砲です。これは、オルガンです。【注①】

これは、耳です。これは、ラジオです。

この中に、楽器があります。それは何ですか？ オルガンですね。

この中に、電気製品があります。それは何ですか？ ラジオですね。

この中に、戦いの武器があります。それは何ですか？ 大砲ですね。

この中に、体の一部があります。それは何ですか？ 耳ですね。【注②】

(2 枚目)

次のページにうつります。

これは、テントウムシです。これは、ライオンです。

これは、タケノコです。これは、フライパンです。

この中に、動物がいます。それは何ですか？ ライオンですね。

この中に、野菜があります。それは何ですか？ タケノコですね。

この中に、昆虫がいます。それは何ですか？ テントウムシですね。

この中に、台所用品があります。それは何ですか？ フライパンですね。

(3 枚目)

次のページにうつります。

これは、ものさしです。これは、オートバイです。

これは、ブドウです。これは、スカートです。

この中に、果物があります。それは何ですか？ ブドウですね。

この中に、文房具があります。それは何ですか？ ものさしですね。

この中に、乗り物があります。それは何ですか？ オートバイですね。

この中に、衣類があります。それは何ですか？ スカートですね。

(4 枚目)

次のページにうつります。

これは、にわとりです。これは、バラです。

これは、ペンチです。これは、ベッドです。

この中に、大工道具があります。それは何ですか？ ペンチですね。

この中に、花があります。それは何ですか？ バラですね。

この中に、家具があります。それは何ですか？ ベッドですね。

この中に、鳥がいます。それは何ですか？ にわとりですね。

① 受検者が聞き取りやすいよう指等でイラストを指し示しながらゆっくりと読み上げること。

② 受検者にイラストを記憶させるため、「それは何ですか？」と尋ねた後に若干の間をおくこと。

なお、口頭による回答は求めず、「思い出してください。」などと促すこと。

以下、同様の対応をする。

【備考】

時間は1枚につき
おおむね1分で行う。

パターンB

(1枚目)

これは、戦車です。これは、太鼓です。【注①】

これは、目です。これは、ステレオです。

この中に、体の一部があります。それは何ですか？ 目ですね。

この中に、楽器があります。それは何ですか？ 太鼓ですね。

この中に、電気製品があります。それは何ですか？ ステレオですね。

この中に、戦いの武器があります。それは何ですか？ 戦車ですね。【注②】

(2枚目)

次のページにうつります。

これは、トンボです。これは、ウサギです。

これは、トマトです。これは、ヤカンです。

この中に、野菜があります。それは何ですか？ トマトですね。

この中に、昆虫がいます。それは何ですか？ トンボですね。

この中に、動物がいます。それは何ですか？ ウサギですね。

この中に、台所用品があります。それは何ですか？ ヤカンですね。

(3枚目)

次のページにうつります。

これは、万年筆です。これは、飛行機です。

これは、レモンです。これは、コートです。

この中に、衣類があります。それは何ですか？ コートですね。

この中に、乗り物があります。それは何ですか？ 飛行機ですね。

この中に、果物があります。それは何ですか？ レモンですね。

この中に、文房具があります。それは何ですか？ 万年筆ですね。

(4枚目)

次のページにうつります。

これは、ペンギンです。これは、ユリです。

これは、カナヅチです。これは、机です。

この中に、鳥がいます。それは何ですか？ ペンギンですね。

この中に、花があります。それは何ですか？ ユリですね。

この中に、家具があります。それは何ですか？ 机ですね。

この中に、大工道具があります。それは何ですか？ カナヅチですね。

① 受検者が聞き取りやすいよう指等でイラストを指し示しながらゆっくりと読み上げること。

② 受検者にイラストを記憶させるため、「それは何ですか？」と尋ねた後に若干の間をおくこと。
なお、口頭による回答は求めず、「思い出してください。」などと促すこと。
以下、同様の対応をする。

【備考】

時間は1枚につき
おおむね1分で行う。

パターンC

(1枚目)

これは、機関銃です。これは、琴です。【注①】

これは、親指です。これは、電子レンジです。

この中に、楽器があります。それは何ですか？ 琴ですね。
この中に、電気製品があります。それは何ですか？ 電子レンジですね。
この中に、戦いの武器があります。それは何ですか？ 機関銃ですね。
この中に、体の一部があります。それは何ですか？ 親指ですね。【注②】

(2枚目)

次のページにうつります。

これは、セミです。これは、牛です。

これは、トウモロコシです。これは、ナベです。

この中に、動物がいます。それは何ですか？ 牛ですね。
この中に、台所用品があります。それは何ですか？ ナベですね。
この中に、昆虫がいます。それは何ですか？ セミですね。
この中に、野菜があります。それは何ですか？ トウモロコシですね。

(3枚目)

次のページにうつります。

これは、はさみです。これは、トラックです。

これは、メロンです。これは、ドレスです。

この中に、衣類があります。それは何ですか？ ドレスですね。
この中に、文房具があります。それは何ですか？ はさみですね。
この中に、果物があります。それは何ですか？ メロンですね。
この中に、乗り物があります。それは何ですか？ トラックですね。

(4枚目)

次のページにうつります。

これは、クジャクです。これは、チューリップです。

これは、ドライバーです。これは、椅子です。

この中に、大工道具があります。それは何ですか？ ドライバーですね。
この中に、花があります。それは何ですか？ チューリップですね。
この中に、鳥がいます。それは何ですか？ クジャクですね。
この中に、家具があります。それは何ですか？ 椅子ですね。

① 受検者が聞き取りやすいよう指等でイラストを指し示しながらゆっくりと読み上げること。

② 受検者にイラストを記憶させるため、「それは何ですか？」と尋ねた後に若干の間をおくこと。
なお、口頭による回答は求めず、「思い出してください。」などと促すこと。
以下、同様の対応をする。

【備考】
時間は1枚につき
おおむね1分で行う。

パターンD

(1枚目)

これは、刀です。これは、アコーディオンです。【注①】

これは、足です。これは、テレビです。

この中に、電気製品があります。それは何ですか？ テレビですね。

この中に、戦いの武器があります。それは何ですか？ 刀ですね。

この中に、楽器があります。それは何ですか？ アコーディオンですね。

この中に、体の一部があります。それは何ですか？ 足ですね。【注②】

(2枚目)

次のページにうつります。

これは、カブトムシです。これは、馬です。

これは、カボチャです。これは、包丁です。

この中に、台所用品があります。それは何ですか？ 包丁ですね。

この中に、野菜があります。それは何ですか？ カボチャですね。

この中に、昆虫がいます。それは何ですか？ カブトムシですね。

この中に、動物がいます。それは何ですか？ 馬ですね。

(3枚目)

次のページにうつります。

これは、筆です。これは、ヘリコプターです。

これは、パイナップルです。これは、ズボンです。

この中に、文房具があります。それは何ですか？ 筆ですね。

この中に、衣類があります。それは何ですか？ ズボンですね。

この中に、果物があります。それは何ですか？ パイナップルですね。

この中に、乗り物があります。それは何ですか？ ヘリコプターですね。

(4枚目)

次のページにうつります。

これは、スズメです。これは、ヒマワリです。

これは、ノコギリです。これは、ソファです。

この中に、鳥がいます。それは何ですか？ スズメですね。

この中に、花があります。それは何ですか？ ヒマワリですね。

この中に、家具があります。それは何ですか？ ソファですね。

この中に、大工道具があります。それは何ですか？ ノコギリですね。

① 受検者が聞き取りやすいよう指等でイラストを指し示しながらゆっくりと読み上げること。

② 受検者にイラストを記憶させるため、「それは何ですか？」と尋ねた後に若干の間をおくこと。
なお、口頭による回答は求めず、「思い出してください。」などと促すこと。
以下、同様の対応をする。

【備考】
時間は1枚につき
おおむね1分で行う。

パターンA

採点補助用紙

受検者氏名	検査開始日時 年 月 日() 時 分
-------	------------------------

回答用紙2、回答用紙3(手がかり再生)

イラスト	自由	手がかり	得点
1	大砲		
2	オルガン		
3	耳		
4	ラジオ		
5	テントウムシ		
6	ライオン		
7	タケノコ		
8	フライパン		
9	ものさし		
10	オートバイ		
11	ブドウ		
12	スカート		
13	にわとり		
14	バラ		
15	ペンチ		
16	ベッド		
小計 (A)			/32

回答用紙4(時間の見当識)

【検査時刻】

時 分	
質問	得点
何年	
何月	
何日	
何曜日	
何時何分	
小計 (B)	/15

←15点以上で採点終了可

【総合点の算出】

$$\boxed{\text{A}}_{/32} \times 2.499 + \boxed{\text{B}}_{/15} \times 1.336 = \boxed{\text{総合点}} \text{点}$$

※Aが15点以上の場合、総合点の計算省略可

【採点結果】

36点未満	
36点以上	

採点者 _____

点検者 _____

パターンB

採点補助用紙

受検者氏名	検査開始日時 年 月 日() 時 分
-------	------------------------

回答用紙2、回答用紙3(手がかり再生)

イラスト	自由	手がかり	得点
1	戦車		
2	太鼓		
3	目		
4	ステレオ		
5	トンボ		
6	ウサギ		
7	トマト		
8	ヤカン		
9	万年筆		
10	飛行機		
11	レモン		
12	コート		
13	ペンギン		
14	ユリ		
15	カナヅチ		
16	机		
小計 (A)			/32

回答用紙4(時間の見当識)

【検査時刻】

時 分	
質問	得点
何年	
何月	
何日	
何曜日	
何時何分	
小計 (B)	/15

←15点以上で採点終了可

【総合点の算出】

$$\boxed{\text{A}}_{/32} \times 2.499 + \boxed{\text{B}}_{/15} \times 1.336 = \boxed{\text{総合点}} \text{点}$$

※Aが15点以上の場合、総合点の計算省略可

【採点結果】

36点未満	
36点以上	

採点者 _____

点検者 _____

パターンC

採点補助用紙

受検者氏名	検査開始日時
	年 月 日() 時 分

回答用紙2、回答用紙3(手がかり再生)

イラスト	自由	手がかり	得点
1	機関銃		
2	琴		
3	親指		
4	電子レンジ		
5	セミ		
6	牛		
7	トウモロコシ		
8	ナベ		
9	はさみ		
10	トラック		
11	メロン		
12	ドレス		
13	クジャク		
14	チューリップ		
15	ドライバー		
16	椅子		
小計 (A)			/32

回答用紙4(時間の見当識)

【検査時刻】

時 分	
質問	得点
何年	
何月	
何日	
何曜日	
何時何分	
小計 (B)	/15

←15点以上で採点終了可

【総合点の算出】

$$\boxed{\text{A}}_{/32} \times 2.499 + \boxed{\text{B}}_{/15} \times 1.336 = \boxed{\text{総合点}} \text{点}$$

※Aが15点以上の場合、総合点の計算省略可

【採点結果】

36点未満	
36点以上	

採点者 _____

点検者 _____

パターンD

採点補助用紙

受検者氏名	検査開始日時
	年 月 日 () 時 分

回答用紙2、回答用紙3(手がかり再生)

イラスト	自由	手がかり	得点
1	刀		
2	アコーディオン		
3	足		
4	テレビ		
5	カブトムシ		
6	馬		
7	カボチャ		
8	包丁		
9	筆		
10	ヘリコプター		
11	パイナップル		
12	ズボン		
13	スズメ		
14	ヒマワリ		
15	ノコギリ		
16	ソファー		
小計 (A)			/32

回答用紙4(時間の見当識)

【検査時刻】

時 分	
質問	得点
何年	
何月	
何日	
何曜日	
何時何分	
小計 (B)	/15

←15点以上で採点終了可

【総合点の算出】

A
× 2.499 +
B
× 1.336 =
総合点
点

/32

/15

※Aが15点以上の場合、総合点の計算省略可

【採点結果】

36点未満	
36点以上	

採点者 _____

点検者 _____

採点基準

1 手がかり再生 (最大32点)

(1) 採点方法

一つのイラストについて、

自由回答及び手がかり回答の両方とも正答の場合は2点

自由回答のみ正答の場合は2点

手がかり回答のみ正答の場合は1点

なお、手がかり回答時において、一つのヒントに二つ以上の回答をさせないこと
(例:「果物」に対して「メロン、りんご」等の複数回答は誤答とする。)

また、回答の順序は採点の対象外とし、与えられたヒントに対応していない場合
であっても、正しく回答されていれば正答とする (例:ヒントである「野菜」の欄
に、果物の正答を記入した場合等)。

(2) 具体例

(例1)

自由回答			手がかり回答		
1	耳	○	1	体の一部・・・足	×
2	トラ	×	2	動物・・・ライオン	○
3	机	×	3	果物・・・メロン	×
4	サル	×	4	家具・・・ベッド	○

採点結果	自由回答及び手がかり回答：正答なし	$0 \times 2 = 0$ 点
	自由回答のみ：正答1つ	$1 \times 2 = 2$ 点
	手がかり回答のみ：正答2つ	$2 \times 1 = 2$ 点
	合計・・・・・・・・	4点

(例2)

自由回答			手がかり回答		
1	耳	○	1	体の一部・・・耳	○
2	トラ	×	2	動物・・・ライオン	○
3	机	×	3	果物・・・メロン	×
4	サル	×	4	家具・・・ベッド	○

採点結果	自由回答及び手がかり回答：正答1つ	$1 \times 2 = 2$ 点
	自由回答のみ：正答なし	$0 \times 2 = 0$ 点
	手がかり回答のみ：正答2つ	$2 \times 1 = 2$ 点
	合計・・・・・・・・	4点

(3) 採点に当たっては、受検者に対して示したイラストを、受検者が覚えているかどうかを検査するものであることから、次の取扱いをし、受検者に不利とならない採点を行うこと。

ア 検査員が説明した言葉を言い換えた場合は正答とする（例：方言、外国語、通称名（一般的にその物を示す商品名、製造社名、品種））。

イ 検査員が示したイラストと類似しているものを回答した場合は正答とする。

ウ 回答した言葉に誤字又は脱字がある場合は正答とする。

エ アからウまでに示すものであっても、絵の区分上、又はカテゴリから容易に想像できるもので、別に警察庁が示すものは誤答とする。

2 時間の見当識（最大15点）

(1) 採点方法

ア 「年」

正答の場合は5点

西暦、和暦のいずれでも構わないこととするが、和暦の場合において、検査時の元号以外の元号を用いた場合には誤答とする。

現在の年を過去の元号に置き換えた場合（例：令和3年を平成33年）は、正しい元号を記載していないため、誤答とする。

西暦「2021年」と回答する意図で「21年」と省略したと認められる場合においては、正答とする。

イ 「月」

正答の場合は4点

ウ 「日」

正答の場合は3点

エ 「曜日」

正答の場合は2点

オ 「時間」

正答の場合は1点（進行要領に示す「5 時間の見当識の実施」において、「鉛筆を持って、始めて下さい。」と言った時刻を「検査時刻」とし、当該「検査時刻」から前後それぞれ30分以上ずれる場合は誤答とする。また、「午前」及び「午後」の記載の有無は問わない。）

(2) 採点における留意事項

採点に当たっては、次の事項に留意すること。

ア 「年」、「月」、「日」、「曜日」及び「時間」は、それぞれ独立に採点する。

イ 回答が空欄の場合には、誤答とする（回答時間中に全体に対する注意喚起を行い、それでも空欄の者については、誤答とする。）。

(3) 具体例

ア 検査日が令和3年で、回答が「昭和3年」の場合
検査時の元号が異なるので、誤答となる。

イ 検査時刻が「9時40分」で、回答が「9時60分」の場合

通常、「〇時60分」と言わないが、検査時刻から30分未満のずれであることから、正答とする。

ウ 検査時刻が「9時40分」で、回答が「10時10分」の場合
回答が、検査時刻から30分以上ずれていることから、誤答とする。

認知機能検査結果通知書

住 所

氏 名

生 年 月 日

検 査 年 月 日

検 査 場 所

総合点

点

(A 点)

(B 点)

記憶力・判断力が低くなっており、認知症のおそれがあります。

記憶力・判断力が低下すると、猟場に猟銃を置き忘れるなど銃 砲やクロスボウ、刀剣類の安全な取扱いに支障が生じる傾向がみられます。

十分注意するとともに、医師やご家族にご相談されることをお勧めします。

また、公安委員会の指定する認知症の専門医による診断を受けていただく場合があります。

この結果、認知症であることが判明したときは、銃 砲やクロスボウ、刀剣類の所持許可又は更新はできません。

年 月 日

公安委員会 印

認知機能検査結果通知書

住 所

氏 名

生 年 月 日

検査年月日

検査場所

「認知症のおそれがある」基準には該当しませんでした。

今回の結果は、記憶力、判断力の低下がないことを意味するものではありません。

個人差はありますが、加齢により認知機能や身体機能が変化することから、自分自身の状態を常に自覚して、それに応じた銃 砲やクロスボウ、刀剣類の取扱いをすることが大切です。

記憶力・判断力が低下すると、猟場に猟銃を置き忘れるなど銃 砲やクロスボウ、刀剣類の安全な取扱いに支障が生じる傾向がみられますので、今後の取扱いについて十分注意してください。

年 月 日

公安委員会 印

認知機能検査の判定や計算等について

総合点による判定

てん み まん 36点未満	き おくりよく はんだんりよく ひく 記憶力・判断力が低くなっており、 にんちしやう 認知症のおそれがある。
------------------	---

判定の基準となる点数（36点）は、認知機能検査の結果と認知症専門医による診断結果との関係を統計的に分析して定められたものです。

認知機能検査は、あなたの記憶力、判断力の状況を簡易な検査によって確認するもので、認知症の診断を行うものではありません。

したがって、総合点が36点未満であったとしても、直ちに認知症であることを示すものではありません。また、36点以上であったとしても、必ずしも認知症でないことを示すものではありませんので、記憶力、判断力に不安のある方は、お近くの医療機関等で相談されることをお勧めします。

ただし、記憶力・判断力が低くなっていると判断された方は、公安委員会指定する認知症の専門医の診断を受けていただく場合があります。

その結果、認知症と診断された場合は、銃 砲やクロスボウ、刀剣類の所持許可又は更新はできません。

総合点の計算

総合点は、次の計算式に当てはめて算出しています。

正しい回答が多くなるにつれて総合点が高くなります。

$$\text{総合点} = 2.499 \times A + 1.336 \times B$$

Aは、記憶した16種類のイラストの名前が正しく回答されているかどうかについての点数です。正しく回答すると点数がつきます。

Bは、「年」、「月」、「日」、「曜日」、「時刻」が正しく回答されているかどうかについての点数です。正しく回答すると点数がつきます。